

青田の主張

令和4年4月1日発行

安心して挑戦できる環境を！（地域おこし協力隊）

今この文を書いているのは3月30日です。令和4年度の地域おこし協力隊の内定が出され、その配属も決まったとの話を役場の担当課の職員の方から伺いました。

地域おこし協力隊の隊員の方は、その自治体のことを調べたり学んだりしながら、その活動に取り組んでいます。逆に私はというと、美瑛町で活動している隊員の方がどんな仕事をして、簡単に言えばどのような方なのか、ほとんど知らないことに最近気づかされました。町の広報でも紹介されていた記憶はありますが、美瑛に来てくれて頑張っているのに、申し訳なく思っています。

気づきのきっかけは、「ざっくり町政ニュース」で紹介した小沼君との出会いから。その後あらためてこの制度について勉強すると同時に、橋本果奈さんという実際に隊員として活動していた方にSNSで話を伺いました。大阪府出身の橋本さんは大学卒業後に高知県室戸市で協力隊の活動をしその後移住。現在同市でゲストハウスを経営しています。

橋本さんの活動ですが、全てが順調だったわけではなく、時には辞めたくなったこともあったそうです。

「地域全体の雰囲気も力になりましたが、やっぱり身近で親身に相談に乗ってくれる方の存在がとても大きかったです。安心して挑戦できる環境は大切だなと、あらためて感じています」と語る橋本さん。地域がどう向き合えばよいのか、そのヒントが見えた気がします。

関係人口を拡大させるためには、この制度はとても有効だと思っていますが、活動を成功させる鍵は人と人とのつながりかもしれません。

そのためには、まずは多くの方に興味をもっていただきたいと考えています。そして、これから先も多くの協力隊のメンバーが美瑛町に来て、安心して挑戦できるための環境づくりを大事にしましょう。

小沼君は現在22歳で私の息子のような年齢です。橋本さんと同じように起業も視野に入れていきます。将来ある若者が美瑛で夢を実現できるように、また、美瑛町の可能性を信じて、地域おこし協力隊に応募してくれたほかの隊員の皆さんも同じように頑張りたい、心からエールを送ります。